

①タブレット端末を活用したケース入力、排泄入浴等支援記録の効率化

②ソフトウェアとリンクしたバイタル測定機器導入における、バイタルチェックの円滑化

社会福祉法人輝きの会

障害者支援施設いきいきの郷

課題1

- ・ケース入力できるパソコンが限られており、入力作業は順番待ちになっていた
- ・ケース記録の確認作業も待たなければならなかった。
- ・排泄、入浴記録も同様に一度用紙に起こしてから、パソコンに入力するといった二度手間になっていた。

課題2

- ・健康管理について、パソコンから離れてバイタル測定するため、一度用紙に記入する必要があった。
- ・パソコンへの入力もほかの業務で使用されており、空いてる時間を見てまとめて入力するしかなかった

タブレット導入

成果 1

- タブレット導入後、複数人で入力可能になり、同時に記録確認も行える為、一人が入力にかかる時間は大きく変わらないが、職員が業務に復帰できる時間が早くなった。
- 用紙に記録する必要がなくなり、1日あたり4枚（月120枚）の削減になっている。

業務効率化ステップ①

- タブレットで入力できる内容が何かを検討し、入力内容を段階的に拡充していくこととした。
- 業者に依頼して機器説明会を実施。各セクションから出席し、伝達研修やOJTなどで操作説明を周知していった。

バイタル測定機器導入

成果 2

- パソコンから離れていても入力ができるため、その後の入力業務や待ち時間がなくなった。
- 情報共有の時間が円滑になり、体調の把握がスムーズになった。

業務効率化ステップ②

- 導入にあたり新たに専用のWi-Fi設備を設置。回旋が混線しないように実施した。
- 現場への導入にあたり、詳しい職員から順に使用していき、機器の取り扱いが不慣れな職員にも複数の職員が関わりながら実施していった。

職員の声①

【良かった点】

- ・同時に複数人が入力できるのは便利。
- ・書いてから入力する手間が省けたので、時短になった。
- ・支援した場所ですぐに入力できるので、内容を忘れてたり抜ける事がなくなった。

【悪かった点】

- ・操作に慣れるまで時間がかかる。

【今後の活用について】

- ・機能を理解して応用すると、紙面での申し送りをなくすことができる。
- ・音声入力機能でさらなる時間短縮が期待できる。

職員の声②

【良かった点】

- ・用紙がいらなくなり経済的。
- ・書いてから打ち込む分の時間の短縮になった。
- ・インカムと併用する事で、体調変化を看護師に迅速に伝えられるようになった。

【悪かった点】

- ・血圧計の測定時間がやや長い。

【今後の活用について】

- ・必要に応じて台数を増やし、利便性を高めていく。